

最近の県内景気動向

平成14年 8月29日
日本銀行水戸事務所

【概 況】

輸出の回復等を映じて製造業の一部に持ち直しの動きがみられるが、設備投資が落ち込んでいるほか、これまで比較的底固さを保っていた個人消費に幾分軟化の兆しも窺われており、総じて低調が続いている。

【消 費】

◎大型小売店の売上

7月の大型小売店（県内13か店）売上は、台風や猛暑による客足の減少等もあって、比較的大幅な落ち込みとなった（前年比▲8.1%）。すなわち、主力の衣料品では、紳士服が不振が続いているほか、夏物処分セールも暑さが本格化した一時期を除いて盛り上がり欠け、雑貨、身の回り品も軒並みマイナスを続けた。この間、食料品を中心とした中元ギフトでは、割引や景品等の特典付きとした6月は好調な滑り出しをみせたが、7月は息切れ状態となり、6～7月通計では、節約指向の目立つ法人向けに、前年をやや下回った。

◎7月の乗用車新車登録台数

7月の乗用車新車登録台数（除く営業用乗用車・軽自動車）は、小型車（前年比+1.8%）を中心とした一部の新型車等は引き続き好調なものの、高額な普通車（同▲24.5%）やモデルチェンジ効果が一巡した小型車等も多くが前年割れとなっている（同8.5%）。

◎7月の家電販売

人気の洗濯機（乾燥機能付）やテレビ（薄型プラズマディスプレイ等）が高額にも拘わらず売上が伸びたが、ビデオ、電子レンジ、パソコン等前年を下回る品目が多く、全体としては伸びが鈍化している。もっとも、8月入り後は、暑気到来に伴いエアコン、冷蔵庫等の売上が大幅に増加。

◎7月のレジャー関連状況

旅行業者の夏休み（7・8月）の予約状況をみると、取扱件数はほぼ前年並みとなっているものの、割高なトップシーズンを避けるなど、低料金指向が強まっており、取扱高としては前年を下回っている。

【公共・住宅投資】

◎公共工事請負額

公共工事請負額は、2005年の開業に向けて急ピッ

チで進んでいるつくばエクスプレス関連工事を中心に公団・事業団（前年比+69.2%）分が大幅増加となり、全体でも前年を上回った（同+8.8%）。もっとも、民間建設の落ち込み等から建設業者の手持ち工事量は低水準となっている。

◎6月の新設住宅着工戸数

雇用不安や所得環境の悪化を背景に、主力の持ち家（前年比▲1.0%）の低迷が続いているほか、高水準を続けている貸家（同17.2%）や分譲（同76.3%）が前年の反動から、前年比マイナスとなったことから、全体でも再び前年を下回った（同▲13.8%）。

【生産動向】

鉱工業生産・出荷（7年=100、季節調整済）は、昨夏以降低水準で推移していたが、出荷が増加している一般機械、金属製品等を中心に、生産水準を引き上げる動きがみられる（4～6月、生産指数前期比：+4.4%<原指数前年比：+0.3%、前年同期比プラスは12年10～12月以来6期ぶり>、出荷指数前期比：+4.3%<+3.9%>）。こうした中、在庫はかなりのレベルまで低下しており、調整が進展している（在庫指数前月比：▲6.0%<▲同7.2%>）

【企業倒産】

7月の企業倒産（負債総額100万円以上）は、消費者の選別強化と流通の構造変化（販売業）、海外生産移管（製造業）等の影響を受けて破綻するケースが多く、件数（24件、前年14件）、負債総額（207億円、前年137億円）ともに、高水準を続けた。

茨城県主要経済指標

（前年比、%）

	13年度	14/5	14/6	14/7
大型小売店売上高	▲3.9	▲5.2	▲4.8	▲8.1
乗用車新車登録台数 [除く軽]	▲3.9	0.9	▲8.2	▲8.5
[含む軽]	▲4.6	4.6	▲5.4	▲3.8
公共工事請負金額	▲8.0	61.6	3.7	8.8
新設住宅着工戸数	▲0.4	10.9	▲13.8	n. a.
[持家]	▲10.9	▲0.3	▲1.0	n. a.
産業用電力消費量	▲4.1	2.1	0.4	▲2.7
[大口電力]	▲4.2	2.8	0.8	▲2.6
鉱工業指数 [生産]	97.5	101.5	99.3	-
鉱工業指数 [出荷]	91.4	97.3	89.9	-
鉱工業指数 [在庫]	78.4	78.7	75.2	-
有効求人倍率 (倍)	0.63	0.51	0.51	n. a.
倒産件数 (件)	235	20	22	24